

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携15周年記念 ノボシビルスク市長団の札幌訪問について

札幌市とロシア・ノボシビルスク市は、今年、姉妹都市提携15周年を迎えたことを記念して、相互に親善訪問団を派遣し記念行事を行うこととしております。

今年6月には札幌から上田市長をはじめ52人の親善訪問団がノボシビルスク市を訪れ、姉妹都市関係促進宣言の調印式・交流会、「サッポロウィーク」の開催、「まちの日イベント」などの事業に参加したところですが、来る9月11日には、ノボシビルスク市長団が札幌市を訪れる予定です。

本市では、訪問団の来札の際に合わせて、記念式典等の記念行事を実施し、姉妹都市交流をさらに深めていきます。

1 姉妹都市交流の歴史

札幌とノボシビルスクは、昭和49年（1974年）に開催された「大シベリア博」へのノボシビルスク市の参加を契機として交流が始まり、以後16年間に渡って、両市長の相互訪問をはじめ、市民レベルにあっても、芸術、文化、スポーツ、青少年交流など多くの分野で着実に友好関係がはぐくまれてきました。このような市民交流の活発化を背景に、平成2年（1990年）6月13日、姉妹都市として提携することを盟約し、両市の姉妹都市提携が実現しました。

ノボシビルスク市は旧ソ連時代から音楽、バレエ、演劇など優れた芸術・文化を誇っており、本市との間で多彩な芸術・文化交流活動を繰り広げられているほか、学術・青少年・スポーツなどの分野においてさまざまな交流が展開されており、現在10団体が友好団体提携を、6つの学術機関が学術交流協定を結んでいます。

2 市長訪問団

ウラジーミル ゴロデツキー～ノボシビルスク市長
ナデジダ ボルテンコ～ノボシビルスク市議会議長
ウラジーミル サンダコフ～ノボシビルスク市国際部長
ニコライ テレホフ～ノボシビルスク市キロフスキー区長
マリーナ カリジュノワ～（通訳）

3 滞在中の主な行事等（予定）

（1）姉妹都市提携15周年記念式典・記念祝賀会（9月12日（月）18：30～20：30）

姉妹都市提携15周年を記念し、札幌パークホテルにおいて、訪問団を招いての記念式典および記念祝賀会を開催します。記念式典では、両市長によるあいさつや記念品交換、今年6月に調印した「姉妹都市関係促進宣言」の披露が予定されています。

（2）「ノボシビルスク都市セミナー in 札幌」の開催（9月12日（月）14：30～15：30）

大学生など、これからの国際交流を担う若い世代を主な対象として、ゴロデツキー市長がノボシビルスク市を紹介する「ノボシビルスク都市セミナー in 札幌」を、北海道大学学術交流会館において開催します。

（3）ノボシビルスク・パネル展（9月12日（月）～15日（木）8：45～17：15）

ノボシビルスク市の概要やこれまでの本市との交流の様子などを紹介する写真約30枚と説明パネルを市役所本庁舎1階ロビーに展示します。

【訪問団の滞在日程】

| | |
|----------|--|
| 9月11日（日） | 市長団到着 |
| 9月12日（月） | 市長・市議会議長表敬訪問 北海道大学訪問 「ノボシビルスク都市セミナー in 札幌」（北大学術交流会館） 姉妹都市提携15周年記念式典・祝賀会 |
| 9月13日（火） | 駅北口、中央区役所等市内視察 |
| 9月14日（水） | 市長団離札 |

なお、10月末には、ノボシビルスク市民訪問団（15人程度）が来札し、札幌市民との交流事業を行う予定です。

4 ノボシビルスク市の概要

- ・位置と面積： 北緯55度02分 東経82度55分 約491平方キロメートル
- ・人口： 約150万人（ロシア第4位）
- ・気候： 厳しい大陸性気候で、冬は比較的雪は少ないですが、寒さが厳しく、夏は乾燥しており30を越える暑い日もあります。1月の平均気温はマイナス18前後ですが、時としてマイナス40～マイナス45まで下がることがあります。
- ・概要： ノボシビルスク州の州都であり、ロシアにおける経済、文化、学術の一大中心地として発展を遂げています。1945年に完成したシベリアのボリショイ劇場と呼ばれる「国立オペラ・バレエ劇場」は、世界最大規模の舞台を誇り、ノボシビルスク市のシンボリック的存在となっています。また、「アカデムゴロドク」と呼ばれる地域に多くの大学・研究機関が集まり、国際的な学術センターとしての役割を果たしています。

スポーツでは、アイスホッケー、スキー、スケートなどのウィンタースポーツが盛んなほか、サッカーは国民的人気があります。
- ・歴史： ノボシビルスク市は、シベリア鉄道のオビ川鉄橋と鉄道駅の建設の際にできた集落が起源と言われています。現在の「ノボシビルスク」という名前は1926年から使われていますが、「新シベリア」を意味しています。

ソビエト政権下においては、シベリア開発の中心地として位置付けられ、政府主導により産業コンビナート、学術施設等が整備され、街の規模は他に類を見ない速度で拡大していきました。

【問い合わせ先】

総務局国際部交流課 Tel：211-2032